

1 学習指導

重点目標	学習指導の充実と確かな学力の向上		P
現状	H27県学習状況調査の平均通過率は4年68.4%(県71.4), 5年73.6%(67.8), 6年72.7%(69.1)であり, 校内児童アンケートで勉強が好きかの問いに肯定的な回答が80%に満たなかったのは1箇学年だった。		
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ○県学習状況調査の平均通過率をどの学年も県平均以上にする。 ○アンケートで学習に意欲的な回答がどの学年も80%以上を目指す。 		
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ○校内授業研究会や授業を見合う会の充実などにより, 授業改善に取り組み, 授業において児童が生き生きと学び, 確かな学力を身に付けることができるようにする。 ○テスト等により学習の定着状況を把握し, 発展的学習や補充的学習を展開すると共に, TTによる個に応じた授業を充実させる。 ○授業以外の時間や家庭学習で基礎的・基本的な内容の定着を図る。 		
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ○「学び合い高め合う学習集団の育成」を目指し校内研究を推進した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ペア, グループ, 学級全体で学び合う場面を意図的に設定 ・互いの高まりや学びの価値を確かめる振り返り場面を設定 ○教師も互いに学び合い, 授業改善に向けた授業研究会を行った。 <ul style="list-style-type: none"> ・校内授業研究会(算数④・理科①・養教加配①) ※○数字は回数 ・授業を見合う会(国語②・算数④・社会①・生活科①・理科②・音楽① 外国語①・図画工作①・道徳①・特別支援②・通級①) ○毎月学習の目標を設定し, 話の聞き方・話し方, 家庭学習など学習の基本的習慣の徹底を図った。 ○単元評価問題・クリニック問題・算数問題集アイテムによる復習の機会を設定した。 		D
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ○県学習状況調査の平均通過率は4年80.7%(県75.9%), 5年77.3%(75.1%), 6年76.3%(72.3%)であり, どの学年も県平均を上回った。 ○校内児童アンケートで「勉強が好きだ」の項目で肯定的回答が全学年が80%以上であった。また, 「勉強がよく分かる」は全学年が90%以上であった。 		
自己評価	(評価) A	県学習状況調査の平均通過率がどの学年も全県平均を上回り, 学習意欲に関する意識調査でも目標値を上回ったことから, 今年度の学習指導による取組の成果があったものと思う。	C
<p>↑ 評価基準 ↓</p> <p>A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた B : 具体的な活動はなされているが, 目標は達成できていない C : 具体的な活動がなされておらず, 目標も達成できていない</p>			
学校関係者評価と意見	A	児童アンケートで「学校の勉強がよく分かる」が93~99%はすごい数値である。5年の県学習状況調査も目標値に達していないものの数値が上がってよかった。意欲の向上も見られるので今後も油断せずしっかり対応して欲しい。授業参観で子どもたちは楽しみながら学習し, 意見を述べ合う姿を見た。学ぶ楽しさを味わうことも学力の一つと捉えたい。	C
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の学力向上に校内研修による授業改善の成果が現れたと捉え, 教師同士が学び合う姿勢を大切にしたい校内研修を今後も継続する。 ・児童が楽しみながら意欲的に学習する授業を行うと共に, 一人一人に確かな学力を定着させるため, 個に応じた指導を充実させる。 ・新学習指導要領の告示を受けて, 今後求められる学習指導のあり方を学び, 授業改善に取り入れる。 		A

2 学校経営

重点目標	保護者や地域住民との連携・協働の充実		P
現 状	見守り隊活動や学校支援ボランティアなど地域の協力を得ることができ、職場訪問など地域の教育力を活用する活動も積極的に設定してきた。さらに、児童が地域に貢献し、地域に愛着をもてるふるさと教育を推進するため、保護者や地域住民との連携・協働がますます必要になってくると思われる。		
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者アンケートにおいて、保護者や地域社会との連携・協働に関する事項の肯定的な回答90%以上を目指す。 ○地域住民による教育活動への参加・協力場面を昨年度以上にする。 		
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭や地域に対して、学校の様子をできるだけ多く情報発信し、児童の活動に興味をもってもらう。 ○学区内の自治会の協力を得て、学校と地域につながりを深める。 ○総合的な学習を中心に推進するふるさと教育を、地域に感謝し貢献する視点で見直し実践する。 		
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ○学校での活動や児童の活躍の様子を校報や学年通信等で家庭に紹介した。校報は地域自治会長にも配付した。 ○連絡帳や担任からの電話等により学校での出来事を伝えるなど、担任と保護者の連携を密にした。 ○ふるさと教育の推進のため、地域から学ぶ校外学習を積極的に行った。また、6年生が修学旅行の際に、出会った人に能代市紹介パンフレットを配る活動を行った。 ○運動会や学習発表会、校内マラソン大会にはたくさんの保護者・地域住民の参観・応援があった。 ○5月の防災の日に実施した避難訓練(地震想定)で近隣の自治会にも参加していただき、学校の避難所開設について説明をした。 		D
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ○避難訓練や町探検発表会、見守り隊感謝の集いなど、地域との連携を深める活動を実施したが、時間帯の設定が悪いせいか、地域の方の参加が少なかった。 ○保護者アンケートで、「学校が地域に学び地域に貢献する活動をしていると思う」の肯定的回答は88.2%、「保護者がPTA行事や学校の参観などによく参加している」は78.8%だった。 		
自己評価	(評価) B	昨年度より地域との連携を図る活動や地域に貢献する活動を積極的に行ったが、十分に推進されたとはいえない。また、保護者アンケートで保護者・地域との連携について目標値に達することが出来なかった。	C
↑ 評価基準 ↓ A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない			
学校関係者評価と意見	B	四小は振興地域に住む子どもが多く、核家族も多い。孫がいるともっと見守り活動等ががんばるものである。それでも、四小は孫がいなくても運動会などに来てくれる。最近は授業参観やPTAのイベントに参加するが、役員などで手伝ってくれる人が減っている。呼びかけや説明方法など工夫して、参加しておもしろいと思われるPTA活動にして欲しい。	C
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA活動は、がんばってくれている役員の方々に感謝すると共に、より多くの保護者がPTA活動に参加・協力してもらえるよう働きかける。(学年懇談で児童の活躍の様子を映像で見せるなど) ・学級担任と保護者の連絡帳や電話等による連携をさらに深める。 ・地域住民との連携は、見守り活動や校外学習への協力、校外班でのラジオ体操など児童の活動への支援をお願いすると共に、地域社会に貢献する活動、児童の元気を地域に伝える活動を一層進める。 		A

3 教育課程・生徒指導

重点目標	自信をもって力を発揮できる児童の育成		P
現状	H27児童アンケートで「自分にはよいところがある」が2箇学年、「みんなの前で発表するのが好きだ」は1箇学年で肯定的回答が80%未満であり、改善されてきたものの、まだ自己有用感・自己肯定感が不足し、力を十分発揮できない児童が見られる。		
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ○児童一人一人が安心して生活し、自己有用感・自己肯定感をもち自分の力を発揮できる学級・学校づくりを目指す。 ○児童アンケートで「自分にはよいところがある」「みんなの前で発表するのが好きだ」の割合がどの学年も80%以上を目指す。 		
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ○学級や学校行事、児童会活動などで、児童一人一人が活躍し、教師や友達に認められ、さらに地域の方にも認められる場を設定する。 ○教師の「一人一人のがんばりを認め、伸ばす」姿勢を徹底する。 ○児童の情報を把握し、その子にとって必要な支援体制を確立する。(加配養護教諭、特別支援教育支援員、生活サポート等の活用) 		
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ○朝帰りの会、授業中に教師や友達から認められる場を設定した。特に、互いの意見を尊重しながら自分の考えを発言する学級会の充実を図った。 ○「校舎がきれい」「あいさつがいい」「堂々と発表できる」など四小の良さを外部の人にも知ってもらおうと集会等で呼びかけた。 ○子どもを語る会、あかしや点検表、職員会議での見つめて欲しい子などにより、全職員で児童の様子共通理解を図った。 ○特別に支援が必要な児童等に対して、特別支援学級②、通級教室、特別支援教育支援員、日本語サポートなどにより支援してきた。 ○加配養護教諭が校内巡視の際に気になる児童に声をかけたり、管理職・生徒指導主事・学級担任等に情報提供したりした。 		D
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ○教育視察や学校訪問で来校した方などから、あいさつや授業に向かう姿勢がよいと認められることが増えた。 ○児童アンケートで「自分にはよいところがある」は1箇学年(72%)、「みんなの前で発表するのが好きだ」は1箇学年(73%)で肯定的回答が80%未満であった。 		
自己評価	(評価) B	認められ授業中に堂々と発表できる児童が増えてきたと感じるが、配慮が必要な児童も依然多いと感じている。アンケートでは昨年度より数値の向上が見られるが、目標値に達することが出来なかった。	C
↑ 評価基準 ↓ A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない			
学校関係者評価と意見	A	四小独自のトイレ掃除を実施し、楽しく活動している。自信をもって堂々とした態度で発表する児童が増えているので、目標値に達していないため自己評価はBであるが、A評価でよい。不登校やいじめの発生率は、全国平均よりかなり低い。道徳教育、心の教育が大切なので、今後も継続して取り組んで欲しい。	C
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・教師による認める言葉かけや児童同士が認め合う場の設定を継続して行い、一人一人の自己有用感・自己肯定感の向上を図る。 ・トイレ掃除や能代紹介パンフレット配布などのように、自分の活動が役立っていると感じる体験を取り入れる。 ・特別の教科「道徳」を中心とした道徳教育を充実させ、自分のため、誰かのため、みんなのため、力を発揮しようとする児童の育成を図る。 		A